



◆平成 23 年度鹿児島県『基礎・基本』定着度調査の結果について

県内の小・中学生が基礎学力（社会生活を営む上で最低限必要な知識や技能等）を、確実に身に付けているかどうか調べるための『基礎・基本』定着度調査が平成24年1月17日～18日に実施されました。

（対象：小学校5年生及び中学校1・2年生）

県の結果が3月10日に公表されましたので、県平均と大隅地区平均、並びに本町の平均についてお知らせいたします。

<調査結果一覧表> ※数字は正解率（%）

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
小 5	県平均	72.4	69.2	69.6	72.3	
	大隅地区平均	71.3	69.0	67.6	71.0	
	大崎町平均	66.6	64.3	64.0	67.2	
中 1	県平均	74.0	69.6	66.7	63.9	77.0
	大隅地区平均	72.8	68.6	65.5	62.5	75.7
	大崎町平均	71.5	67.1	59.3	59.5	69.3
中 2	県平均	65.7	63.4	65.7	64.6	69.8
	大隅地区平均	63.4	60.2	61.8	62.0	66.1
	大崎町平均	62.2	53.8	57.1	57.5	56.7

自立への一歩

—人生は選択の連続である—

まぶい窓おしの庭 NO.6

菱田中学校 校長 西 哲也

子どもにとっても日常の些細なことから志望高校の選択などまで、幅広く選択を迫られる場面がある。その時々で、よりよいと思われる判断をして、その結果については自分で責任を取るという経験を重ねていくことが自立するには不可欠だと考える。

このことについて、雑誌で読んだ記事を思い出す。家族で食事に出かけた場面が紹介されていた。メニューを見ながら、それぞれ何を注文しようか迷っている。決めきらないでいると、父親が「ここのお店はカレーがおいしいと聞いた。」と言って父親はカレーに決めた。他の家族も、それならとカレーを注文する。できあがったカレーを食べて「おいしくない。」「注文しなければよかった。」と勝手に言い出す。我慢して聞いていた父親が、ついに怒り出すというものであった。自分で決められなかった責任は棚にあげて、他人のせいにする。

これとは逆もありうる。「ここのお店はカレーがおいしいからカレーにしなさい。」と、過度に先回りして子どもが失敗しない道を親が教える。いつまでも保護しては、自立の芽を摘み取ってしまう。

こんな積み重ねをしていると、将来大きな壁にぶつかったときに対処できない自分の不甲斐なさに気づき、逃げ出したくなるであろう。子どもは、つまずいて転んで擦り傷をつくりながら、どうしたらこんな目にあわないかを考え成長する。失敗した経験からいろいろなことを学ぶ。私たち大人は、立ち直れなくなるような大けがをしそうになった時に手を差し伸べればよいと思う。

「人生は選択の連続」である。それぞれの発達段階に応じて子どもに考えさせ、判断させる。ただし判断させるにあたっては、自身の生きてきた経験をもとにしながら親の思いを、願いを込めて話す。そして子どもが選択した結果に対しては、親の思いとは違っていても腹をくくり、ぐっと我慢して見守ることも大切になる。



次に日本で金環日食が見れるは、18年後じゃ！

月のまわりから太陽がはみ出して見えるのが金環日食！



国内では、25年ぶり！

